

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

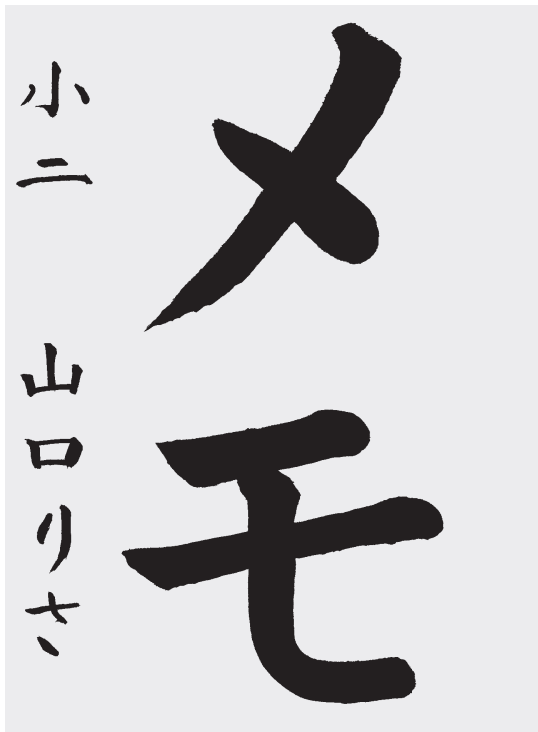


種谷萬城先生

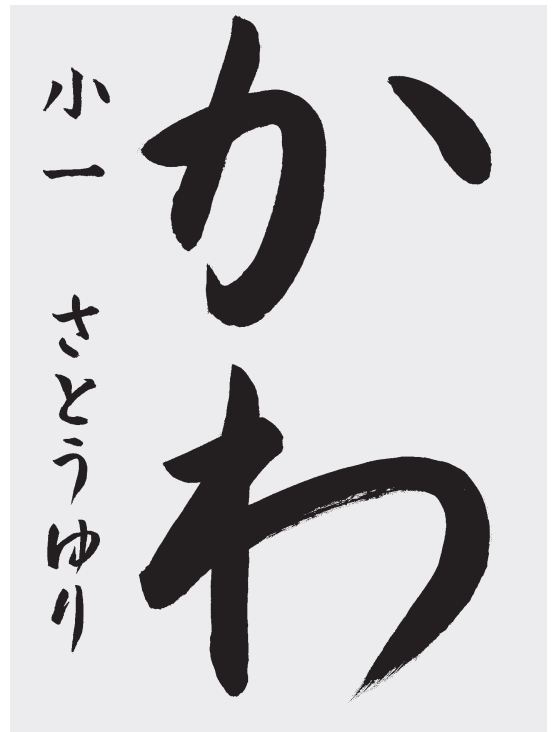
幼・小学1年参考手本



前田龍雲先生



柳橋香仙先生



広瀬舟雲先生

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本

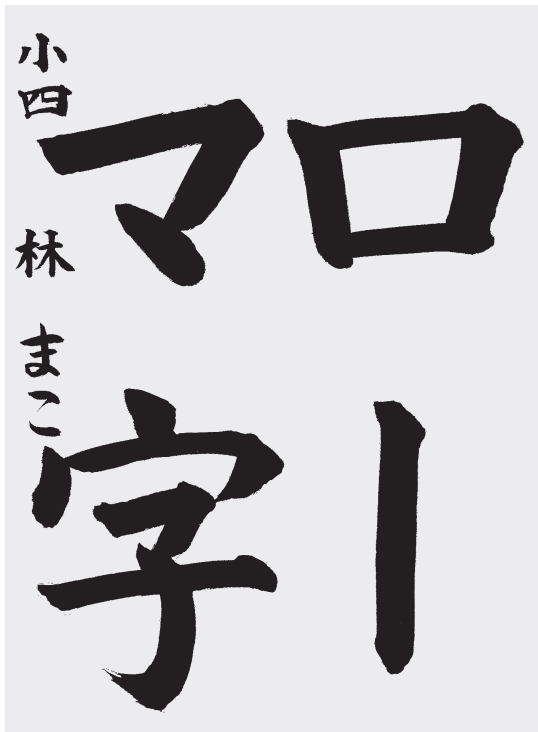


小竹石雲先生

小学3年参考手本



山口仙草先生



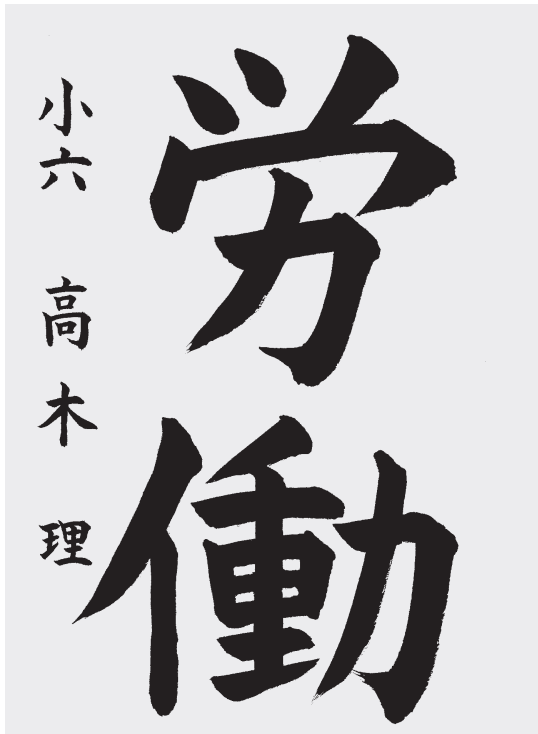
半田藤扇先生



名越蒼竹先生

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本



佐藤菜扇先生

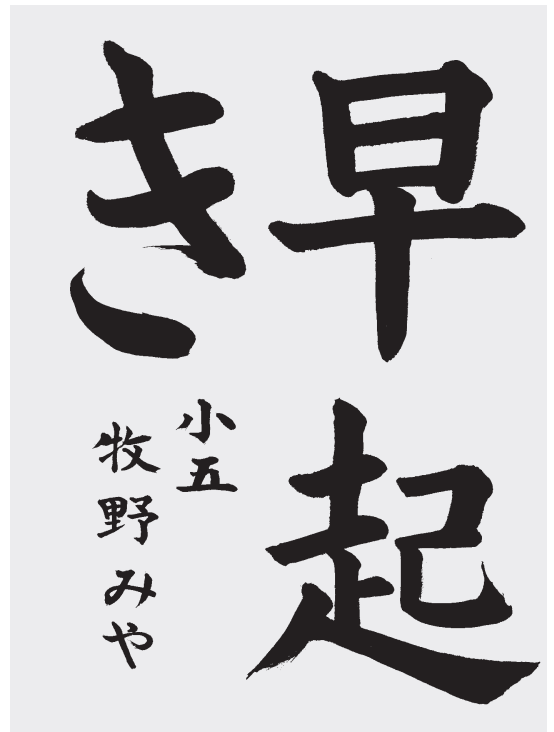
小学5年参考手本



川村美泉先生



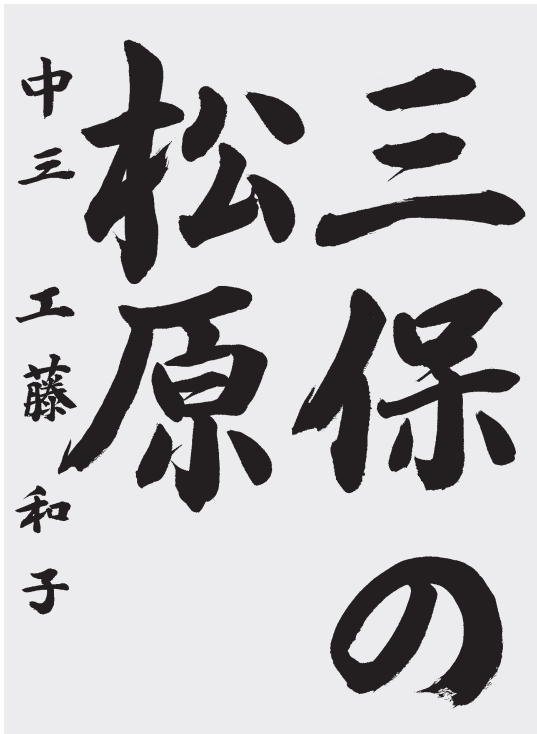
大平邑峰先生



武山櫻子先生

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

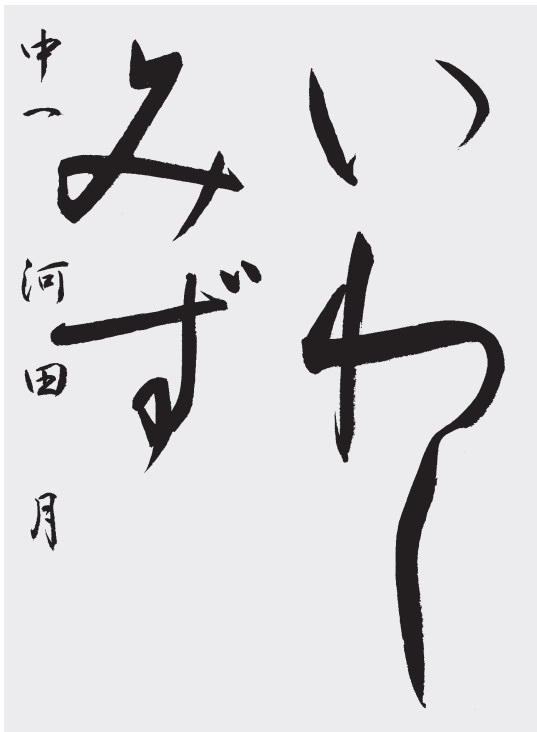
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



千葉蒼玄先生



川島舟錦先生



佐藤希雲先生



大内熒軒先生

6年

労働

〈筆順〉

、 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
イ 信 俾 僅 働 働

労働(ㄣ) 労働(明)

労働(教)

風立
ぬ立

〈筆順〉

ノ 凡 凡 凡 凡 風
、 一 十 立 立

風立ちぬ(ㄣ)

風立ちぬ(明)

風立ちぬ(教)

〈字源〉

知 知 ち
奴 奴 ぬ ぬ

中学

※手本は許容で書いています

新風

〈筆順〉

ノ ヲ 立 糸 新 新
ノ 凡 凡 凡 風 風

新風(ㄣ)

新風(明)

新風(教)

口の接し方に注意

品行
方正

〈筆順〉

ノ 口 口 口 口 口 品
ノ 一 行 行 行 行
ノ 一 方 方
一 一 下 正 正

品行方正(ㄣ)

品行方正(明)

品行方正(教)

〈許容〉

ノ ヲ 立 糸 新 新
ノ 凡 凡 凡 風 風

止め 止め 止め 止め

やさしい行書

三保の
松原

〈筆順〉

一 二 三

イ 伊 但 保 保 保
一 木 木 木 松 松
ノ 一 斤 斤 原 原

つながる
気持ちで

みず
つぎ返す

つながる気持ちで
のびやかに

ひらがなの字源

(415)

| す | み | し | わ | い | 字源 | 字形 |
|---|---|---|---|---|----|----|
| 寸 | 美 | 之 | 和 | 以 | | |
| す | 美 | 之 | 和 | 以 | | |
| す | 美 | 之 | 和 | 以 | | |
| す | 美 | 之 | 和 | 以 | | |

「国語科書写の理論と実践」
全国大学書写書道教育学会編より転載

※字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。
※字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学 4 年

小学 3 年

| | | | |
|------|---|---|---|
| 支部名 | を | こ | |
| | て | ん | わ |
| 段・級 | ら | だ | か |
| | し | 光 | 葉 |
| 学 年 | て | が | の |
| 四 | い | | 間 |
| 名 前 | ま | 池 | か |
| | す | の | ら |
| | 。 | 水 | さ |
| | | 面 | し |
| | | | |
| | | | |
| 岸本大起 | | | |

| | | | |
|------|---|---|--|
| 支部名 | 行 | | |
| | 列 | 道 | |
| 段・級 | を | ば | |
| | 見 | た | |
| 学 年 | つ | で | |
| 三 | け | | |
| 名 前 | た | あ | |
| | 。 | り | |
| | | の | |
| | | | |
| | | | |
| 水野小春 | | | |

筆順に気をつけて、字形を整えましょう。

四画目が一番長い

中心

池

あける

間

葉

筆順

筆順

筆順

たてと横の分間をととのえて

池(ヨ)池(シ)池(明)池(教)

間(ヨ)間(明)間(教)

葉(ヨ)葉(明)葉(教)

「へん」と「つくり」のつりあい気をつけましょう。

列

行

道

筆順

筆順

筆順

列(ヨ)列(明)列(教)

行(ヨ)行(明)行(教)

道(ヨ)道(明)道(教)

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学 6 年

小学 5 年

| | | | |
|-----|------|---|---|
| 支部名 | | | |
| 段・級 | | | |
| 学 年 | 六 | | |
| 名 前 | 塩川草太 | | |
| | け | 切 | 古 |
| | つ | な | 典 |
| | が | 心 | 芸 |
| | れ | の | 能 |
| | て | 財 | は |
| | い | 産 | 人 |
| | く | と | 々 |
| | 。 | し | の |
| | | て | 大 |
| | | 受 | |

| | | | |
|-----|------|---|---|
| 支部名 | | | |
| 段・級 | | | |
| 学 年 | 五 | | |
| 名 前 | 谷 真実 | | |
| | げ | ま | 友 |
| | て | る | 達 |
| | 発 | と | は |
| | 言 | 、 | 、 |
| | し | 元 | 学 |
| | ま | 気 | 級 |
| | し | に | 会 |
| | た | 手 | が |
| | 。 | を | 始 |
| | | 挙 | |

産

「生」は中心より右側

産 一 立 产 产 产 产 产
産 三 产 明 产 産 産 産 産

財

〈筆順〉

財 財 財 財 財
財 三 財 明 財 財 財 財

能

〈筆順〉

能 能 能 能 能
能 三 能 明 能 能 能 能

漢字の字形を正しく整えて書きましょう。

挙

少し
そる

挙 三 挙 明 挙 挙 挙
挙 三 挙 明 挙 挙 挙 挙

発

約45度の角度で左右に払う

発 三 発 明 発 発 発
発 三 発 明 発 発 発 発

達

〈筆順〉

達 達 達

達 三 達 明 達 達 達 達

筆順にしたがって正しく整えて書きましょう。

〔6月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学生（行書）

中学生（楷書）

| | | | | |
|-----|------|--|--|--|
| 支部名 | | | | |
| 段・級 | | | | |
| 学年 | 中三 | | | |
| 名前 | 森永絵里 | | | |

宮沢賢治が追い求めた理想。
それは、人間がみんな人間らしい
生き方ができる社会だ。

| | | | | |
|-----|------|--|--|--|
| 支部名 | | | | |
| 段・級 | | | | |
| 学年 | 中三 | | | |
| 名前 | 森永絵里 | | | |

宮沢賢治が追い求めた理想。
それは、人間がみんな人間らしい
生き方ができる社会だ。

漢字よりひらがなを少し小さく書きましよう。

中心
追
この右払いの上部はあける
〈筆順〉
1 戸 2 自 3 追 追

中心
方
折れてから内側へむかう
〈筆順〉
1 一 2 方

方 3 方 4 方 5 方 6 方

・行書のワンポイントアドバイス
行書は、楷書のように、点や画を一つ一つ作るのとは違い、かなり自由に流れのある筆使いの中から点画が形成されます。「間」の字の二種類の行書を書き比べて下さい。

間 間
「ネ」への行書
ネ ↓ 才

〈筆順〉

1 2 3 4 5 6 7 8 9

これからの作品締切日と課題

令和8年7月号～9月号までの作品締切日と毛筆課題

| 中学生 (全学年共通) | 小6 | 小5 | 小4 | 小3 | 小2 | 幼・小1 | 締切 | |
|---------------------------------------|------|-----------|-----|------|-----|-----------|------|-----|
| 星に 願いを | 祭典 | 一直線 | 元気 | ペン | のぞみ | あ | 7月5日 | 7月号 |
| くもの みね | 用意周到 | 登山 | 自由 | 大きい | はやい | いま | | |
| 次代を 担う | 自在 | 未来社会 | 山の日 | 実行 | 力もち | こおり | 8月3日 | 8月号 |
| <small>荒海や 佐渡に横たふ 天の川</small> | 粉骨碎身 | 道路 | 湖水 | 魚つり | 石だん | へちま | | |
| 夕映え の富士 | 名月 | 正倉院 | 開始 | 林道 | 田んぼ | ひろば | 9月7日 | 9月号 |
| もみじ がり | 前代未聞 | 祝日 国民の | 飛ぶ | 金メダル | 秋 | ねがい つき | | |

7月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

| | |
|------|----|
| に | た |
| いき | い |
| きました | く |
| した。 | かん |

小 2

| | |
|----|----|
| 小 | 広 |
| さ | い |
| な | 海 |
| 魚 | に |
| たち | くら |
| 。 | す、 |

小 3

| | |
|----|---|
| 小 | 町 |
| を | た |
| 作 | ん |
| り | け |
| まし | ん |
| た。 | で |
| | 地 |
| | 図 |

小 4

| | |
|---|---|
| そ | 夏 |
| ん | 休 |
| な | み |
| で | に |
| は | は |
| 、 | 、 |
| お | 家 |
| 元 | 族 |
| 気 | み |
| で | |

小 5

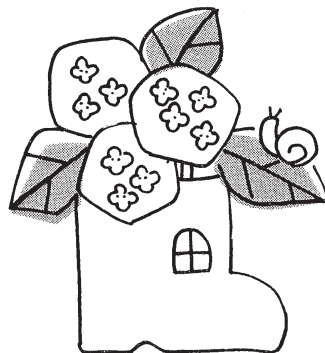
| | |
|----|---|
| を | 「 |
| 書 | わ |
| い | た |
| て | し |
| み | と |
| よ | 友 |
| う。 | 達 |
| | 」 |
| | と |

小 6

| | |
|---|---|
| て | 文 |
| ま | 章 |
| と | を |
| め | 要 |
| る | 約 |
| こ | す |
| と | る |
| が | 場 |
| 大 | 合 |
| 切 | 。 |

中学生

| | |
|---|----|
| こ | 現 |
| と | 代 |
| が | は |
| で | ホ |
| き | ム |
| る | ペ |
| 時 | ー |
| 代 | ジ |
| と | を |
| な | 作 |
| っ | 成 |
| | し、 |
| | 誰 |
| | で |
| | も |
| | 世 |
| | 界 |
| | 中 |
| | に |
| | 情 |
| | 報 |
| | を |
| | 発 |
| | 信 |
| | す |
| | る |



書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第111回 書写・習字・書道の違いを述べられますか？

新年度が始まりました。私が大学で担当している教科指導法の授業では、小・中・高の教員をめざしている教育学部や文学部の学生たちに、最初にいつも表題に記した質問から投げかけます。この質問が完璧に答えられる学生は、毎年残念ながらほとんどいません。また、本学の通信教育部では、小学校、中・高校の国語や高校書道などの教員免許取得のための講座を開講していますが、このスクーリングに来られる、他教科のすでに教員をされておられ書道部の顧問になったから書道の教員免許も取得したいという方々、書塾の先生、教員を目指す決心をした方々など様々な目的をもって受講される方がおられ最近受講者が増えているのです。最初に、この質問をしてから講義を始めます。私としては、この区別をきちんと知らずして、学校現場、特に小・中学校の毛筆や硬筆の授業を担当していただくたくないからです。

学校現場で教壇に立つには、教員免許状が必要で、小学校・中学国語・高校書道のいずれかの教員免許状を取得している書塾の先生に講師として、書写の授業をお願いする学校があります。文字を書くことが上手で得意な人が教えるということもメリットです。そして先に掲げ

たこの三つの違いをきちんと勉強された指導者でしたら、さらに結構でいいことではありません。しかし、実際は「書写」とは何かを習ったはずですが、きちんと理解しておらず、昔ながらの「習字」の授業を展開してしまっている、つまり一般的な書道塾と同じように意気揚々と指導しているのを拝見します。これはかえってデメリットとなるのが指導者自身で分かっておられないことが多く残念でなりません。書写の指導は、「文字を正しく整えて書くことができるようにする」ということが基本で、一番大切なこととして「毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導する」ということです。毛筆の書写の指導が、毛筆書写の育成で完結してしまわないように硬筆などに工夫することが求められています。ゆえに書写についてきちんと学習せずに教壇に立つと、「毛筆のための毛筆」の授業をしてしまうので、①国語の分野から逸脱している。②日常の書字学習への応用に欠ける。ことなどが考えられ、この辺が私としては危惧している点です。大概の書塾の先生は、書写と習字が同じものと勘違いしておられる方々がとても多いのです。(つづく)

第79回書道芸術院展

書道芸術院春華賞



「生きる力」

岩上 郁子

書道芸術院大賞



「中家菜津子の短歌」

須藤 雪蓮

書道芸術院準大賞



「聞王昌齡左遷龍標遙有」

金延 憲市

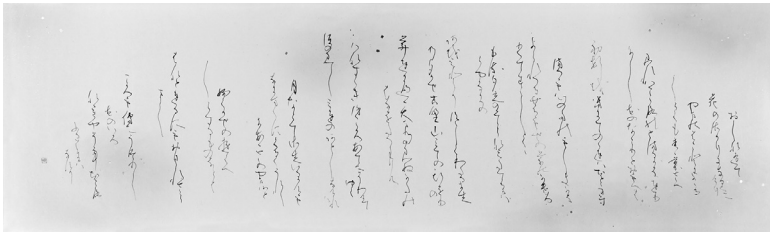
△編集部より▽
二月に全国学生書道展と一緒
に行われた大人の展覧会上位
作品です。

「鶴見正夫の詩 太陽」



加藤 祐子

書道芸術院準大賞



「おしなべて」

逸見 玲子



「交響」

相内 沙莉



「春日憶李白」

本田 賢紳

6月号の清書のしめきりは、

6月8日(月) 必着

おくれないようにお送りください。

尚、7月号の雑誌(6月8日締切バーコード出品券)

は、5月27日(水) 発送予定です。

公益財団法人 書道芸術院

幼・1年

あ
さとうたけし

いま
小一 みうらいく

2年

みのぞ
小二 山口りく

いはや
小二 古山みき

3年

ペン
小三 みうらかおり

いき
小三 山下由子

4年

元気
小四 田中かん

自由
小四 平山友子

5年

線一直
小五 森たく

登山
小五 山川太一

6年

祭典
小六 富士政希

記達
小六 山口明子

中学

答案
中二 広村由利

用意周到
中二 守田川清美

星に願
中三 佐藤太郎

ものの
中三 中本薫

編集余録

○5月6日が春季昇段級試験の締め切り日です。昇段級試験は春と秋の年2回しかありません。段級昇格のチャンスです！皆さんの力作を期待しております。

○今月のお手本「三保の松原」は、静岡県のみほ半島の海岸沿いに約7kmにわたり松林が続く景勝地です。ここからは富士山を望むことができ、特に海越しに広がる富士山の景色は絶景として有名です。三保の松原は、ユネスコの世界文化遺産「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産に登録されており、富士山と深い関わりを持つ特別な場所です。また、天女が羽衣を松にかけたという「羽衣伝説」が伝わる場所でもあります。日本には「三保の松原」のような素晴らしい名勝・景勝地がたくさんあります。遠足や旅行などで全国各地を観光できるといいですね。

（悠輝）